

マレーシア工科大学研修レポート

生物資源学類 3年 神田 倫花

3/13~3/21 までの約 1 週間、私たちは KL に滞在しマレーシア工科大学、プトラ大学そしてマラヤ大学を訪問し、現地でのどのような研究がなされているのかを研修を通して学んだ。また、メンバーと協力し、KL 市内また市外にまで赴き、マレーシアの歴史や自然保全について体験した。その中でも「マレーシアの自然保全」について注目する。

“バトゥー洞窟でのダークケイブツアー”
ダークケイブは、バトゥー洞窟での主要な洞窟の 1 つで、クアラルンプールシティセンターから 15km ほど離れたところにある。ヒンドゥー教の聖地と呼ばれている「バトゥー洞窟」は、クアラルンプール中心部から 1 時間程で行けるマレーシアのパワースポット。巨大な鍾乳洞の中には神々が祀られており、荘厳な雰囲気を感じることができる。ヒンドゥー教の大祭タイプーサム期間中には、世界中から観光客が訪れる。洞窟は 272 段の急な階段を登った先にあり、ダークケイブはその途中に存在する。それは、2 km の道のりで、A~F の大きな空間で構成されている。ダークケイブは、バトゥー洞窟の中でも最も旅行者が見るべきアトラクションである。また、1 億前の古代の動物の住処でもあり、そこには世界でも最も珍しい蜘蛛である“Trapdoor”が生息している。ダークケイブでは、教育的な興味をそると共に、生態系的な意義を多く保持し続けている。ツアー自体は 4 5 分間ほどで、ガ

イドがつき、英語で中の鍾乳洞の成り立ちや、希少な種の説明そして生態系の維持の方法など説明は多岐に渡る。光が入ってくる場所の生態系と、光が全く入ってこない場所の生態系が全く異なり、他のどこでもない、ダークケイブ内で独自の進化を遂げた生物たちを目にする事ができた。

ダークケイブは、世界の中でも最も研究がなされている洞窟の 1 つであり、観光名所としての顔も併せ持つ。その中で、定期的に洞窟内の温度や湿度風向き等を観測する事により、その日の観光客の人数を減らし、生態系に悪影響を及ぼさないようにしていた。また、観光客が落とすお金は、生態系保全の活動に充てられていた。マレーシアでは、このように保全と資金調達をバランス良く行なわれており、そこから多くを学ぶ事が出来ると考えた。



ダークケイブ内の光が差し込む箇所